≪平成21年度　薩摩川内市事務事業評価表≫

1　事務事業の位置付け（Plan）

				内部評価者名 課長・室長・支所長	時 田 逸 男
事務事業名	青少年海外派遣事業			担当者	天 達 哲 志
所管部課名	教育部　社会教育課			事業の根拠 （根拠法令）	
事業の種類	☑ ソフト事業　☐ 建設・整備事業　☑ 施設管理　☐ 内部管理				
総合計画上の位置づけ	施策の基本方針	政策（章）	地域の特色を活かした教育・文化のまちづくり	主要施策（節）	青少年の健全育成
				施策（項）	青少年の健全育成

予算科目等				
会計	一般会計	款	教育費	
項	社会教育費	目	社会教育総務費	
事項	青少年対策費	細事項	青少年育成事業費	

事業の概要

公募による市内中学生を選考委員会で審査し，決定した派遣生について約1ヶ月間アメリカの一般家庭にホームステイさせ，市民生活・社会生活・学校生活を体験する中で，異文化学習と国際感覚の育成を図る。
週4日は英語を使ってのアメリカの文化・生活習慣についての授業と，社会見学・文化交歓会・ボランティア活動・レクリエーションなどを行う。

2　事務事業の実施　（Do）

事業の内容	対象（誰を，何を対象とする事業か）	市内中学生（10人程度）	事業開始年度			平成17年	
	手段（市がどのような活動をするか）	約1ヶ月間の海外ホームスティ研修（民間主催のプログラム参加）の参加者公募と事前説明会等を行う。 ※原則JL（ジュニアリーダー）有資格者を参加対象としている。	活動指標（市として何を行うか？）	指標名	①	JL資格取得者	
					②	JL資格取得率	
				最終目標値	①	10人	
					②	100%	
				最終年度	①	23年度	
					②	23年度	
	意図（どのような目的で事業を行うか）	研修に参加させることで，国際的感覚と幅広い視野を持たせ，学校・地域等においても積極的なリーダー的存在となる青少年の人材育成を図る。また，派遣生を他の育成事業に参加させ，研修発表の機会を与える。	成果指標（活動をした上で，目標となる成果をどのように設定するか？）	指標名	①	参加人数	
					②	他の事業への参加率	
				最終目標値	①	10人	
					②	100%	
				最終年度	①	23年度	
					②	23年度	

コスト・指標の推移	項目		単位	平成19年度決算	平成20年度決算	平成21年度（見込み）	平成22年度（見込み）	平成23年度（見込み）
	事業費	国・県支出金	千円					
		その他						
		一般財源		1,000	1,600	中止	2,000	2,000
		合　計（A）		1,000	1,600	0	2,000	2,000
	従事職員数		人	0.20	0.20		0.20	0.20
	人件費（B）		千円	1,600	1,600	0	1,600	1,600
	従事嘱託員数		人					
	人件費（C）		千円	0	0	0	0	0
	トタールコスト		千円	2,600	3,200	0	3,600	3,600
	活動指標の推移	①	人	5	8	中止	10	10
		②	%	80	80		90	100
	成果指標の推移	①	人	1	2		5	10
		②	%	20	25		50	100

事業費の主な支出内容（事業内容がわかるよう，支出する主なものを記入してください）

補助金　100%

3　事業の視点別評価　（Check）

妥当性	対象・手段の妥当性	☑ 妥当である　☐ 改善の余地はある　☐ 妥当でない
	(上記選択の理由) 青少年海外派遣事業は，市内中学生を対象に実施されているため，事業の実施は妥当であり不可欠である。	
	市が関与すべき妥当性	☐ 市で実施すべき　☑ 民間でも可能　☐ 民間で実施すべき
	(上記選択の理由) 南日本カルチャーセンターのホームステイプログラムを利用した事業である。	
効率性	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある　☑ 削減余地はない
	(上記選択の理由) 南日本カルチャーセンターが主催する青少年海外派遣事業は498,000円(その他必要経費あり)である。 17・18年度は30万円の補助であったが，19年度から20万円に減額しており、その影響があったかどうか初年度は5人の参加であった。	
	人件費の削減余地	☐ 削減余地がある　☑ 削減余地はない
	(上記選択の理由) 職員2人で従事、審査会時には4人の課長職等に審査を依頼している状況である。	
有効性	成果の達成度	☑ かなり高い　☐ やや高い　☐ 低い
	(上記選択の理由) 今後もっと英語の勉強に力を入れ，国際交流関係の仕事等に就きたい。また，何事も前向きにチャレンジし，新たな目標を持ち，地域活動・ボランティア活動に参加したい等の意見のほか、実際に、帰国後の中学生には、内面的変化や表情・言葉など積極性が感じられる。	
	成果の向上余地	☐ かなりある　☑ ある程度ある　☐ ほとんどない
	(上記選択の理由) 青少年海外派遣の研修生に地域のリーダーして活躍を期待する。	

4 事業の改革・改善の方向性 (Action)

内部評価(一次)

①今後の改革の方向性

☐ 現状のまま継続

☑ 見直しの上で継続⇒今後の方向性　☐ 拡大　☐ 他の事業と統合　☑ 手段の改善　☐ 移管　☐ 縮小

☐ 休止　☐ 廃止

②上記方向の理由

アメリカ合衆国を主体とする実施であるが，英語圏域以外(アジア地域)の国へ派遣し，国際感覚・国際性を養えることも必要である。

③改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画

国際姉妹盟約都市への派遣交流を行うことにより，相互交流へと発展する可能性がある。

内部評価(二次)

評価者名

①内部評価結果

妥当性　⇒　☐ 高い　☑ 低い

効率性　⇒　☐ 高い　☑ 低い

有効性　⇒　☑ 高い　☐ 低い

②今後の改革の方向性

☐ 現状のまま継続

☐ 見直しの上で継続　⇒今後の方向性 ☐ 拡大 ☐ 他の事業と統合　☑ 手段の改善　☐ 移管　☐ 縮小

☐ 休止　☐ 廃止

③上記の改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画(内部評価一次と違う部分)

● 事業目的と，手段の洗い直しの必要性